

令和2年度1学期いじめ防止対策の取組状況に係る報告

1 未然防止への取組

(1) 家庭への啓発

- 「子どもと話そう 子どもの話を聴こう」を配付（第1回評価検証委員会再掲）
- いじめ防止啓発チラシ「いじめをしない、させない、見逃さない」を配付（参考）
- 兵庫県教育委員会作成「いじめ防止啓発チラシ」を配付（第1回評価検証委員会再掲）

(2) 心の絆プロジェクト生徒会・児童会代表者ミーティング ※新型コロナウイルス感染拡大により中止

- 「心の絆プロジェクト」リーフレットを配布し、絆の大切さ、いじめ根絶に向けた取組の大切さについて各学校において指導を依頼

(3) いじめ防止市民フォーラム ※新型コロナウイルス感染拡大により中止

- いじめ防止啓発ポスターの作成・配布及び受賞作品の紹介と9月「いじめ防止啓発月間」の啓発
- 道徳の時間を活用し、「いじめ」、「生命尊重」、「仲間づくり」について児童生徒が考えを深める学習の推進
- いじめ防止啓発標語の募集【小学校5・6年生を対象】

2 早期発見・早期対応への取組

(1) 児童生徒の相談行動の促進

- 相談行動促進（自殺予防教育）研修会の実施

◆ 自殺予防教育全体研修（参加者：47人）

日時	テーマ	講師	対象	会場
8月17日(月) 13:30～16:30	相談行動促進（自殺予防教育）	奈良女子大学大学院 非常勤講師 阪中 順子氏	教育相談コーディネーター等	市民会館小ホール

◆ 受講生の感想

- ・ 小学校から大学生に至るまで、学力や学業不振が自殺へとつながることを知り、驚愕した。子どもは様々な形でSOSを発信しているので、気づき、早急にフォローしていきようにしたいと感じた。リーフレットは、昨年度授業をしてみて、非常に難しいと感じた。毎年研修を行っていただけると、より児童のためになる授業ができると思う。

【小学校20代教諭】

- ・ 友だちを「励ますパターン」「分かろうとするパターン」でロールプレイすることで、その違いを感じることができた。教職員間でロールプレイを行い、授業を実施する。受講して、自分の想像とは違うことがよく理解できた。学業不振を減らすことから努力していく。

【小学校40代主幹教諭】

- ・ 昨年、別の研修会で同じような話を聞いたが、月日が経つと忘れていた部分もあり、定期的に研修をすることの大切さを感じた。リーフレットは今回の研修前に学校で目を通してきたが、ロールプレイ「分かろうとするパターン」は難しいと感じた。学年団で話し合っ進めたいと思う。

【中学校40代教諭】

- ・ 昨年度からリニューアルされ、リーフレットが使いやすくなった。コロナ禍で家庭環境が変化した生徒もいる状況で、不安に寄り添うことやつらい気持ちを人に伝えることを学ばせる意義はより大きくなっていると考え。「昨年と同様に」ではなく「今年ならではのやり方」で相談行動促進教育を行いたいと考えている。

【中学校50代教諭】

(2) いじめの認知

① いじめ認知の推移

() 内：昨年度実績 単位：件

校 種	4月	5月	6月	7月	合計
小学校	1 (50)	3 (66)	50 (108)	87 (160)	141 (384)
中学校	0 (24)	0 (18)	15 (53)	14 (50)	29 (145)
合計	1 (74)	3 (84)	65 (161)	101 (210)	170 (529)

② いじめの様態

単位：件

いじめの様態	小学校		中学校		合計	
からかい・悪口	84	59.6%	21	72.4%	105	61.7%
仲間外れ・無視	10	7.1%	0	0.0%	10	5.9%
ネットでの誹謗中傷	3	2.1%	5	17.3%	8	4.7%
暴力	19	13.5%	0	0.0%	19	11.2%
恐喝	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他 ※	25	17.7%	3	10.3%	28	16.5%
合計	141	100.0%	29	100.0%	170	100.0%

※落書き、もの隠し、嫌がらせ、いたずらなど

③ いじめ発見のプロセス

単位：件

発見のきっかけ	小学校		中学校		合計	
アンケート	34	24.1%	1	3.4%	35	20.6%
本人	40	28.4%	10	34.5%	50	29.4%
他の児童生徒	11	7.8%	1	3.4%	12	7.1%
学級担任	13	9.2%	6	20.8%	19	11.1%
関係教員	2	1.4%	2	6.9%	4	2.4%
養護教諭	0	0.0%	1	3.4%	1	0.6%
保護者	39	27.7%	8	27.6%	47	27.6%
その他 ※	2	1.4%	0	0.0%	2	1.2%
合計	141	100.0%	29	100.0%	170	100.0%

※独自の教育面談、スクールカウンセラーなど

④ 昨年度から減少している理由

- 6月に分散登校があり、担任の目が行き届いた。6月中旬に通常登校となったため、子どもたちの心理的な変化も例年の5・6月が今年の7・8月にずれていると考えられる。
- 教育相談を8・9月に実施予定の学校もあるため。

3 関係機関との連携を強化した取組

(1) スクールサポートチームの活動状況について

① 第1回定例会

- 日 時 令和2年9月25日(金) 15:00~16:00
※新型コロナウイルス感染拡大により1学期は開催せず
- 内 容 ・加古川市いじめ防止対策改善基本5か年計画(2020年度版)の概要説明
・各構成員からの報告

② チーム員の取組

- 学校支援カウンセラー(心理相談員)
4月以降新型コロナウイルス感染拡大により相談は減少した。長期休業明けの6月の第1週目は、学校へのアウトリーチ体制を強化し対応した。その後の相談件数は増加している。

○ いのちと心サポート相談員（校長OB）

4月以降新型コロナウイルス感染拡大により相談は減少した。6月以降は相談件数が増加し、さらに7月には大幅に増加し過去最高の件数となった。一方で、学校に対する保護者からの苦情は少ない状況である。しかしながら、新型コロナウイルス感染症予防のために学校が例年とは異なる状況にあることから、不安の高い保護者や児童生徒は多いように感じる。

○ 学校安全支援員（警察OB）

窃盗やゲーム依存の子どもなどに対面指導を実施した。背景には、保護者が生活に困り仕事に追われ、子どもに目をかける余裕がなくなっている状況が見える。

○ スクールロイヤー（弁護士）

助言した件数は5件

No	学校からの相談内容
1	家庭の事情で悩む児童を支援するために、学校として関われることや保護者へのアプローチについて
2	面会交流の内容を変更する際の法的な手続等について
3	保護者からの手紙や文書の扱いについて
4	保護者から学校に対する文書作成の要求について
5	児童の作品（コンクール出品予定ポスター）の紛失について

4 推進体制・検証体制を整える取組

（1）アセス推進体制の検証と支援

○ アセスの結果と取組状況は資料2で説明します。

（2）いじめ対策委員会及び不登校対策委員会の機能的な運用

○ ユニット別不登校対策委員会（ユニット情報交換会）の実施

（3）いじめ対策へのPDCAサイクルによる評価検証体制の推進

○ 各学校の改善プログラム取組状況については資料2で説明します。